



ハウズドクター会員の皆様へ

ハウズドクターメンバーの雨研さん（大淵理事長）がリフォーム産業新聞に掲載されました。近年、雨漏り被害・事案が多発しており全国各地から検診・相談依頼がきているようです。また、協力業者向け研修セミナーも実施しておりますのでご案内申し上げます。

〈部位別リフォーム〉



雨漏り編

# 雨漏り原因、問診表で特定

## 屋根の形状など37項目の診断

専門家が使う特別なアンケート

同社がまず行うのは、ユーザーに「問診表」へ記入してもらうこと。これは、「水漏れが起きている場所」や「雨漏りが始まったタイミング」などはもちろんのこと、「屋根の形状や「外壁の仕様」といった細かい部分にまで及ぶ、37項目の

質問で構成されたアンケート。これによって、原因のある程度まで絞り、検査の効率化を図る。

例えば、屋根の形状や仕様が片流れの場合は棟の辺りに原因があるケースが多い。また、モルタルの場合

は雨が降ってすぐに、コンクリートの場合は時間差で雨漏りが起こる傾向がある。こうした傾向の把握に

は、経験だけでなく、「問診表」によって蓄積されてきたデータも生かされている。

「病院に行った際は、初めに問診があって、それから検査、診断が行われますよね。それと同じです。近頃は高気密高断熱の住宅が増えています。雨水が内部に滞留しやすく、雨漏りに気が付きにくい。知らないうちに被害が拡大してしまつてくるので、特に注意が必要です」（大淵理事長）

### ピンポイント調査

検査は、原因と疑われる範囲に簡易試験を実施した後、ピンポイントで雨天状況を再現する独自の方法で実施。これは、検査箇所を器を設置し、そこに水を入れて、染み込みを確認するもの。一般的な散水試験とは異なり、原因が疑われる箇所1つ1つで実施するので、精度が高い。一方で、1つあたりの検査範囲が狭いので、「問診表」でどれだけ実施範囲を絞れるかが重要になってくる。

### 安心感が第一

検査にかかる時間は平日から1日ほど。その様子をビデオカメラで撮影し、解説を加えながらユーザーと共有することで、検査内容の透明性を示す。

多くの工務店やリフォーム会社が雨漏りの解決に困った際に駆け込む会社がある。雨漏り検診技術開発研究所（東京都清瀬市）だ。現在の会員数は210人に上る。同社の大淵正理事長に雨漏りの原因究明のポイントを聞いた。

### 雨漏り検診技術開発研究所



大淵正理事長

▲「問診表」で、検査の効率化とデータの蓄積を行う



▲実際の検査の様子。同社で特許取得済み

